XEAM
ELECTRIC MOBILITY

VMOTO

F01

- エフゼロワン 2026モデル -

取扱説明書

Ver.02
2026年 8月発行

目次

ユーザーインストラクション 03
安全に関する注意事項 03
走行を開始する前に 05
コンポーネントとパーツの説明 07
操作ガイド 10
走行に関する項目 15
バッテリーに関する注意事項 18
メンテナンス 21
FAQ & トラブルシューティング 22

ユーザーインストラクション

安全を確保するため、乗車する前にこの取扱説明書を注意深く読み、以下の要件を遵守してください。

❶ 本マニュアルに記載されている情報（関連する指示、注意事項および警告を含む）を十分に理解してください。

❷ 車体の操作方法および緊急時の対応措置を十分に理解してください。

❸ 車体に貼り付けられた警告ラベルの内容に十分注意してください。

❹ 車両や部品を自己判断で分解しないでください。交換が必要な場合は、最寄りの販売店にご連絡ください。

❺ この取扱説明書は適切に保管してください。

⚠ この車両のすべての設定値は工場出荷の際、国の標準規格に従い設定されています。
改造車両について当社は責任を負いません。

安全に関する注意事項

ご自身および周囲の方々の安全を確保するため、以下の事項を必ず守ってください。

❶ 該当免許証を所持しない人に車両を貸さないでください。

❷ 走行車線を守って運転し、法定速度を守って運転してください。

❸ この車両を運転する時は、運転免許証を持っていることを確認して、運転免許証なしで運転しないでください。

❹ 運転に影響を与える可能性のある薬物を服用した後や、肉体的に気分が悪いときは運転を控え、アルコールを飲んだ場合は運転をしないでください。

❺ 法律や交通規制、交通標識を遵守し、周囲の状況をよく確認し、危険を積極的に回避してください。

❻ 雨や雪の場合は、制動距離が長くなりますので速度を落としてください。
悪天候の状態ではできるだけ運転を控えてください。

❼ ヘルメットや手袋などの安全装備と、必要に応じて適切な保護具を着用してください。

❽ 安全を確保するために、適切にライトを使用してください。
ハイビームを継続して使用すると、対向車線側の車両や歩行者に視覚障害を与える可能性があります。

❾ 次の項目に注意してください。

a.建造物のロビー、避難階段や通路、建造物の出入口に駐車しないでください。

b.充電が完了して充電器を差したままにしないでください。
充電時は可燃物から遠ざけ充電完了後は速やかに充電器を取外してください。

c.バッテリーの警告ラベルに注意して正しく使用してください。
バッテリーを分解することはできません。

d.充電器の安全の指示と警告ラベルに注意して正しく使用してください。
充電器を交換する時は当社指定の充電器を使用してください。

e.水洗いに関する注意事項をよくお読みください。

❿ 乗車前に、以下の内容に異常がある場合は修理のため、販売店にご相談ください。

a. 電源が正しく起動し、ライト類が適切に作動するか確認してください。

b. 前後のブレーキが適切に作動するか確認してください。

c. ハンドル、前後輪にガタがないか確認してください。

d. タイヤの空気圧は適切か確認してください。

⓫ 電動バイクの特性として高負荷での連続走行、又は最高速付近での連続走行を続けると、電子機器保護の制御機能が働き、動力を停止して走行できない場合があります。
安全な場所に停車してバッテリーコネクタを抜き、しばらく待ってから再始動してください。

- 01 -

同梱品の確認

×2

リモート
コントロールユニット

×2

メカキー

×1

取扱説明書

×1

充電器

×1

ミラー用スパナ

- 02 -

バッテリーの取付け

❶
シートとバッテリーカバーを開き、バッテリーを取付けます。

❷
ブレーカーがOFFになっていることを確認し、バッテリーコネクタを差し込みます。

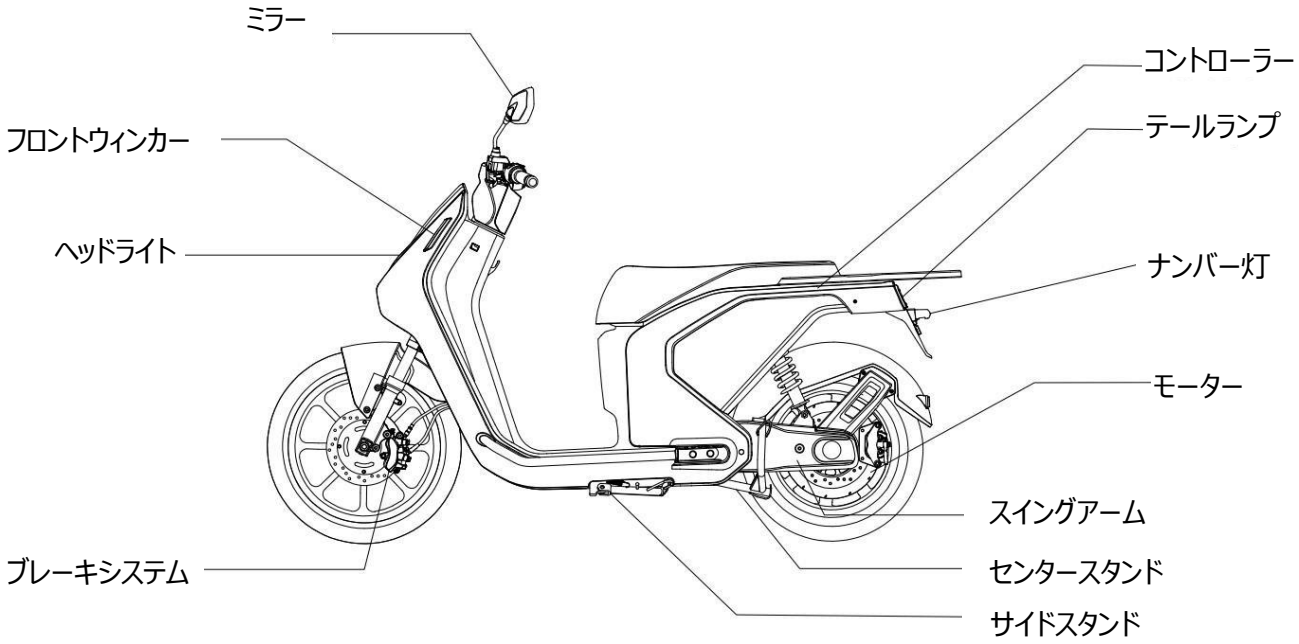
❸
バッテリーコネクタのロックを掛けて、ブレーカーをONにします。

❹
バッテリーカバーを戻し、シートを閉めます。

※ブレーカーは、バッテリーケーブルを挿し込んだ後に「ON」にしてください。

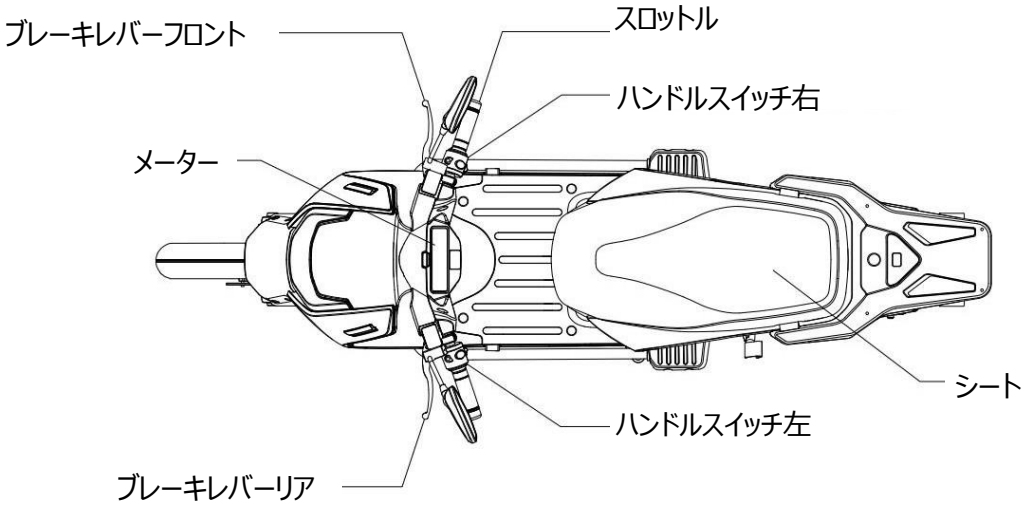
コンポーネントとパーツの説明

側面図



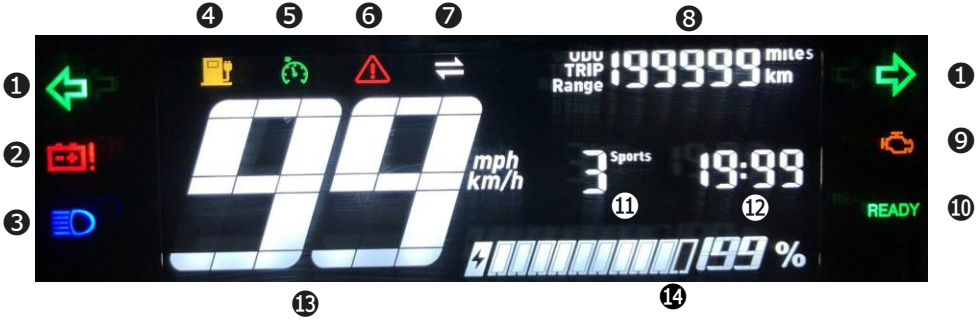
コンポーネントとパーツの説明

上面図



コンポーネントとパーツの説明

メーターパネル表示



❶ウィンカー表示灯
ウィンカー作動時に点灯

❷バッテリー警告灯
バッテリー残量２０％低下またはバッテリー異常を感知した際に点灯

❸ハイビームインジケータ
ハイビーム点灯時に表示

❹充電マークランプ
充電中又はバッテリー残量20%以下の時に点灯

❺クルーズコントロール表示灯
非対応

❻警告灯
不具合発生時に点灯

❼通信
メインコントローラへの接続が正常の場合に点灯

❽オド/トリップ/レンジ表示
電源を入れた時にオド/トリップ/レンジの表示が切替可能

❾OBD警告灯
不具合発生時に点灯

❿READY
走行可能時に点灯

⓫走行モード表示
現在の走行モードを表示

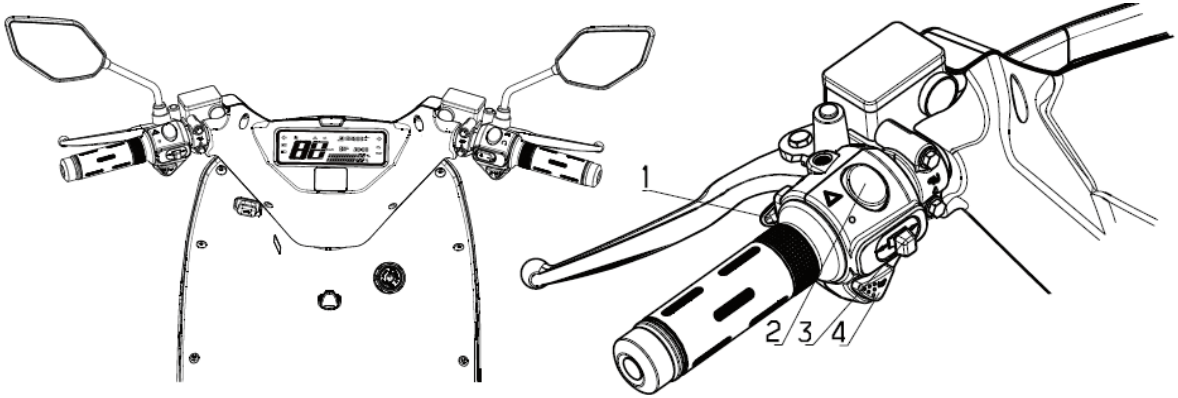
⓬時計
日本仕様は非対応

⓭スピード
現在の速度を表示

⓮バッテリー残量表示
バッテリー残量をゲージの目盛と%で表示

操作ガイド

ハンドルスイッチ左



❶ ヘッドライト、ハイ/ロービーム切替スイッチ

人差し指で押すとハイビームが点灯し、もう一度押すと
ロービームに切替わります。
電源投入後にハイビームを6回連続でオン／オフすると、
ODD(総走行距離)・trip(トリップ)・range(レンジ)表示を
切り替えることができます。
選択項目が決定すると無操作のまま10回点滅後に、
そのときに表示されているモードが使用可能となります。

表示の説明

ODD(総走行距離)…現在までの走行距離を表示します。
trip(トリップ)…トリップリセット時からの走行距離を表示します。
range(レンジ)…現在設定している走行モードでの、推定走行可
能距離を表示します。

❷ ハザードランプスイッチ

上へ押すと全ウィンカーが点滅し、、下へ押すと消灯します。

❸ ウィンカーランプスイッチ

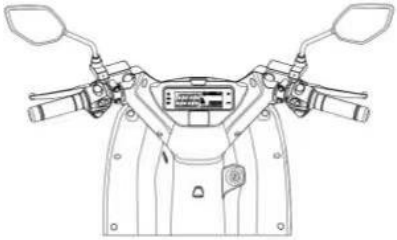
左右の操作でウィンカーが点滅します。
消灯する場合は中央でプッシュします。（プッシュキャンセル）

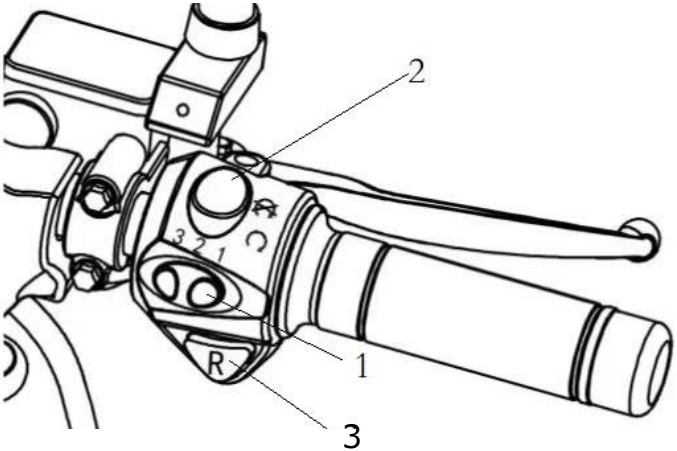
❹ ホーンボタン

押すとホーンが鳴ります。

操作ガイド

ハンドルスイッチ右





❶ モードスイッチ

次の3つのモードを選択できます。

1：エコモード

2：ノーマルモード

3：スポーツモード

※モード変更は、停止時かそれぞれのモードで出せる速度以下になってから操作してください。
走行しているスピードが高いまま操作すると、車両の破損もしくは転倒など重大な事故に繋がる可能性があります。

❷ パーキングスイッチ

パーキングスイッチを上に押すと、パーキングポジションになり、パーキングインジケーター(P)が点灯します。

パーキングスイッチを下に押すと、READYランプが点灯して走行スタンバイ状態になります。

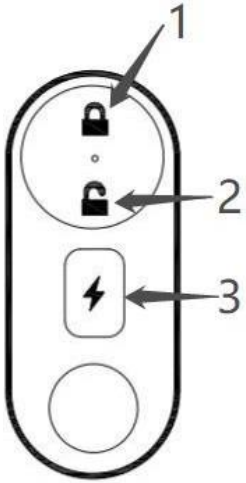
❸ リバースボタン

ハンドルスイッチ右下のRボタンを押したままにすると、モード「R」が表示されます。
そのままスロットルをゆっくり回すと、低速でバックすることができます。

操作ガイド

リモートコントロールユニット

有効範囲内で操作を行うことで、車輌をロックまたはロック解除できます。



❶ロックボタン
車体が静止状態のときに、リモコンの「ロックボタン」を押すと、
セキュリティーが起動します。

❷ロック解除ボタン
車体がロック状態にある場合、「ロック解除ボタン」を押すと、
セキュリティーが解除できます。

❸プッシュスタートボタン
リモコンでロックを解除した後、プッシュスタートボタンを押すと、
車体のキーシリンダが青く発光し、発光部を押すことで、鍵がなくても電源をオンにする事ができます。
もう一度キーシリンダの発光部を押すと、電源をオフにできます。

操作ガイド

メカニカルキーの操作方法

❶ メカニカルキーのスタート

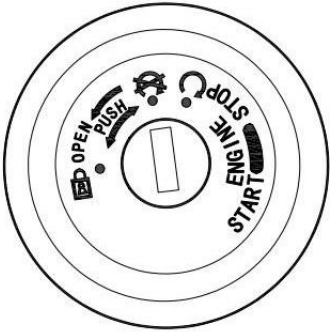
リモコンで車体のロックを解除した後、鍵を右に回し電源を入れます。

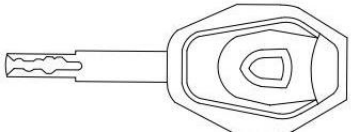
鍵を左に回して元の位置に戻すと電源が切れます。

❸ シートの開け方

鍵をキーシリンダに挿し、鍵を左方向に回すと、シートが開きます。

また、鍵を元の位置に戻すと再びロックされるため、シートの開閉時は左に回した状態を保ってください。





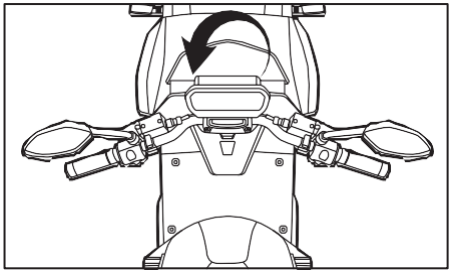
鍵を挿し、押し込んで左に回します。

鍵を挿し、左に回します。

❷ ハンドルロックの方法

車体をパーキング状態に停車させ、ハンドルを左に切ります。

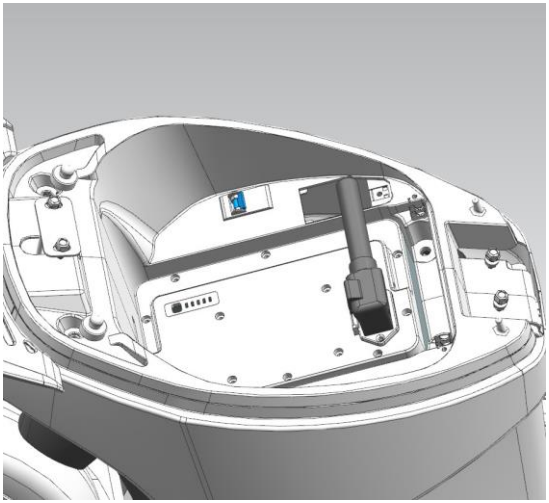
鍵をキーシリンダに挿し、さらに奥に押し込んで左に回すと、ハンドルロックをかけることができます。

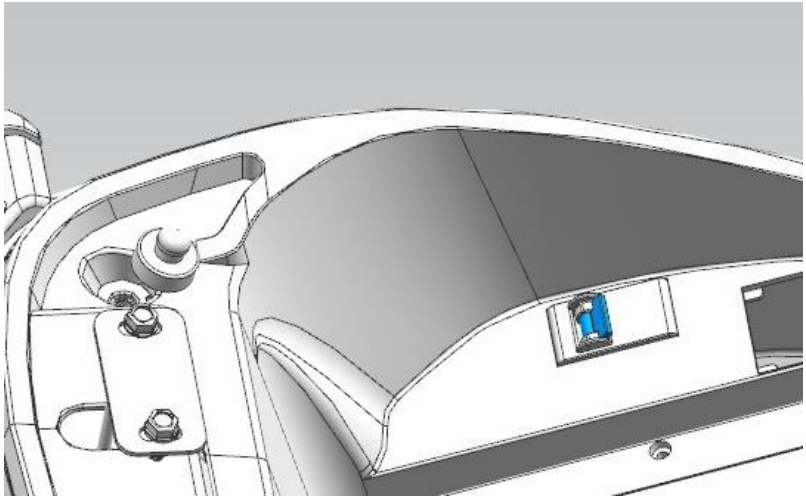


操作ガイド

ブレーカー操作

ブレーカー回路および各部品保護のため、ショートや過大電流の際に自動で「OFF」にします。
作動後は手動で「ON」の位置に戻すことが可能です。





【 重 要 】

安全のため、以下の場合はブレーカーを「OFF」の位置にしてください。

・バッテリーコネクタの脱着時
・洗車および洗浄の前
・車体を長期保管する場合
・バッテリーケーブルを外す前

※ブレーカーはバッテリーケーブルを接続した後に、「ON」の位置へ操作してください。

走行に関する項目

乗車前点検項目

乗車前に下記項目の点検を実施してください。

❶ハンドルがしっかり固定され、左右に転舵してもスムーズに動くこと

❷左右のハンドルスイッチがきちんと作動すること

❸スロットルがスムーズに回り、きちんと作動すること

❹タイヤの空気圧を確認すること

規定空気圧は1名乗車…(前)175kPa (後)200kPa / 2名乗車…(前)175kPa (後)225kPa

❺タイヤ表面をチェックし、ひび割れ、損傷、異物の噛み込みがないこと

❻タイヤの溝深さが十分残っていること。ウェアインジケータの高さまで摩耗している場合は交換が必要です

❼電源ONの状態でスピードメーター内に警告灯の点灯有無を確認すること

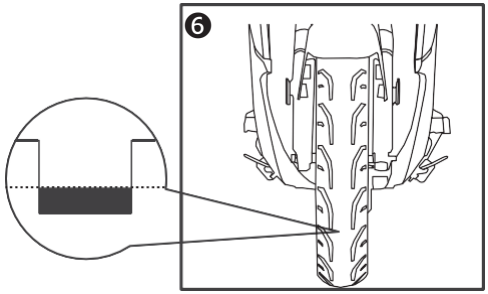
❽目的地までに必要なバッテリー容量があるか確認すること

❾すべての灯火器が正しく機能するか確認すること

❿ホーンが正しく機能するか確認すること

⓫ミラーの清掃、視界の調整を行うこと

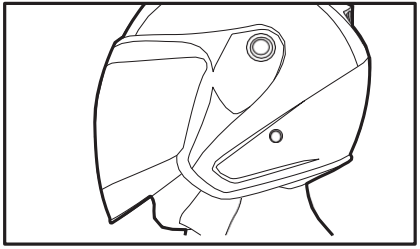
⓬ブレーキオイル量およびブレーキシステムが正常に作動しているか確認すること



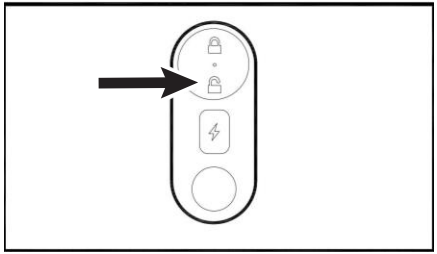
ご不明な点や異常がございましたら、お近くの販売店にお問い合わせください。

走行に関する項目

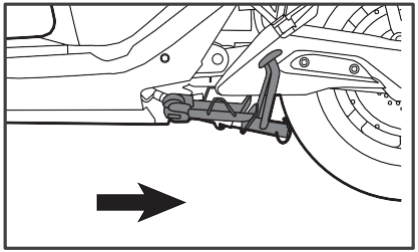
走行手順



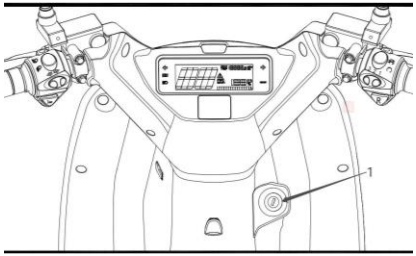
❶ ヘルメットを被り、あごひもを締めます。



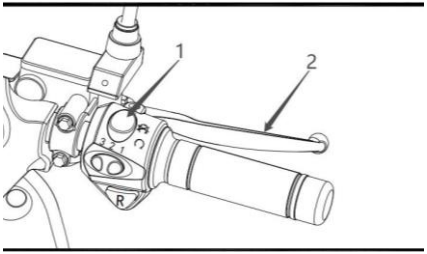
❷ リモコンの「ロック解除」を押します。



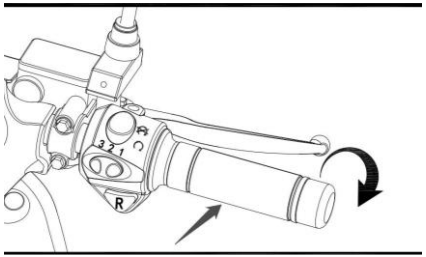
❸ 車両を起こし、スタンドを上げ乗車します。



❹ イグニッションスイッチを押すか、鍵を「ON」の位置に回して電源を入れます。



❺ 1のパーキングスイッチを下に押すと、パーキングランプが消えて、READYランプが点灯します。
続いて2のブレーキレバーを一度握ると、走行可能になります。



❻ スロットルをゆっくり回すと、走行を開始します。

走行に関する項目

【 警 告 】

❶車両を移動する前に、サイドスタンドが上がっており、ハンドルロックが解除されていることを確認してください。
また、サイドスタンドを出した状態でステップ上で立ち上がらないでください。スタンドの破損や転倒等の危険があります。

❷走行中に「パーキングスイッチ」を押さないでください。走行不能になることに加え、モーターに負荷が掛かり非常に危険です。

❸車両が完全に停止していることを確認して起動してください。走行中に異常が発生した場合は、 速やかに道路脇に停止してください。

❹大変危険ですので、走行中に電源を OFF にしたり、再起動しないでください。

乗車時の注意事項

❶発進時は、急加速による過度の電気消費を回避する為に、ゆっくり加速してください。

❷走行時に一定の速度を保ち、頻繁な急発進、急ブレーキ、急加速などは避けてください。

❸本製品の最大耐荷重は 240kg です。過度な負荷は車両と走行に悪影響を与えます。
※原付 2 種の最大積載量は 60kg です。

❹意図しない車両の発進事故を防ぐために、車両を押しながら移動する際は電源を入れずに移動してください。
また、乗車するまでパーキングモードを解除しないでください。

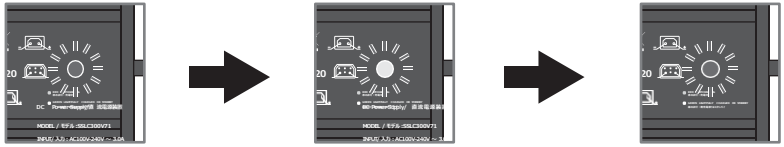
❺駐車中は電源を切り、ハンドルロックで施錠してください。

バッテリーに関する注意事項

充電器の取り扱いに関して

❶バッテリーと充電器を接続します。
充電器のインジケーターが消灯していることを確認し、**最後に充電器のプラグをコンセントに挿しこみます**。

❷充電を開始したバッテリーが満充電になると、充電器のインジケータが赤→緑になります。
※満充電付近では下記の動作を１～5分ほど繰り返します。



充電開始
（ インジケータ：赤 ）

充電完了
（ インジケータ：緑 ）

充電開始
（ インジケータ：赤 ）

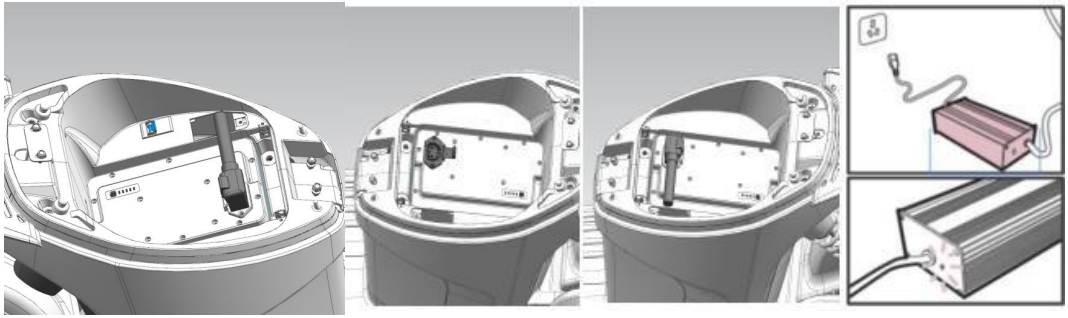
※1 ～ 5 分動作を繰り返します。
※この間で充電器を抜かないでください。

※充電器は 10 時間連続で充電すると、一旦停止します。コンセントを抜き、冷却後、再度接続して充電を再開してください。

バッテリーに関する注意事項

バッテリーを取り外して充電する場合

❶シートを開けて、バッテリーカバーを開きます。
❷ブレーカーをOFFにした後に、バッテリーコネクタを抜いてバッテリーを車体から取り出します。
❸バッテリーと充電器を接続して、最後に充電器のプラグをコンセントに挿しこみます。
❹充電が完了すると、緑のランプになりますので、接続を外してください。



【 警 告 】

- バッテリーを子供の手の届く場所、水のかかる場所、熱源のある場所から遠ざけてください。
- 充電温度：10～30℃ / 放電温度：0～40℃
- 使用後にバッテリーを直接充電する場合またはバイクを長時間使用しない場合は、必ずバッテリーを車体から取り出して保管してください。
- バッテリーの－端子と＋端子を接続しないでください。
- バッテリーへの強い衝撃を与えないでください。
- バッテリーを充電するために、指定された充電器以外の充電器で充電しないでください。
- バッテリーと充電器は工場出荷前に厳重に検査されているため、分解などは絶対に行わないでください。

バッテリーに関する注意事項

保管・メンテナンス・輸送

❶ バッテリーを長期間保管する場合はバッテリーを車体から取り出し、５０％程になるまで充電を行います。
(バッテリー残量が０％からの充電であれば、1個当たり５時間程度充電し、バッテリーのインジケータで確認します。)

❷ バッテリーを取り出し、長期間保管する場合は1ヶ月毎にバッテリーインジケータを確認してください。

❸ バッテリーと充電器は、清潔で乾燥した換気の良い場所に保管する必要があります。腐食性物質との接触を避け、
熱源から離し保管してください。

❹ バッテリーの保管条件は、温度：0 ～ 25℃ / 湿度≦65%RH。

【 重 要 】
※バッテリーを長期間使用せず完全放電した場合は、保証対象外となるため、ご注意ください。

メンテナンス

定期的なメンテナンスにより、車両の耐用年数と運転時の安全性を向上させることができます。
以下の内容を参考にして、車両を適切に管理してください。

点検とメンテナンス

購入後、1,000km または１ヶ月（いずれか早い方）に達したら、販売店で最初の点検とメンテナンスを行う必要があります。

購入後、3,000km または６ヶ月（いずれか早い方）毎に、販売店で定期的な点検とメンテナンスを行うことをお勧めします。

購入後、5,000km または１年（いずれか早い方）毎に、販売店で定期的な法定点検を行わなければなりません。

交換する部品は、Vmoto 純正部品を使用してください。

清掃と保管

きれいな水と中性洗剤を使用して清掃し、柔らかい布とスポンジを使用して表面を清掃してください。

部品の表面を傷つけないように、金属ブラシ、サンドペーパーなどを使用して清掃することは避けてください。

清掃後は柔らかい布で水分を拭き取ってください。

部品の錆びを避けるため、日光や雨への露出を避け、乾燥した換気の良い場所に駐車してください。

【 警 告 】

❶ 清掃する前にブレーカーを「OFF」にしてください。

❷ 浸水による部品の故障を回避するため、高圧水を使用して直接洗浄しないでください。

❸ 長期間使用しない場合は、劣化防止のために、ブレーカーを「OFF」にしてバッテリーを車両から取り外してください。
１ヶ月毎に 4 時間ほどバッテリーを充電してください。

❹ 長期保管後は、十分に充電してからご使用ください。

FAQ & トラブルシューティング

バッテリートラブルからの回復方法

バッテリーの状態		原因	対応
使用前	車両がバッテリーを認識できず「電源」が入らない	バッテリー残量の低下	バッテリーの充電をしてください
使用中に	バッテリー残量が少ない状態で走行する場合、バッテリー容量が10%を下回ると、自動で電源オフになる	バッテリー容量の低下により、低電圧保護回路が働く	バッテリーの充電をしてください
	エラーコード 88表示	バッテリーの低温による放電	バッテリーと車輌を暖かい場所に保管し、しばらくしてから充電する
	エラーコード 90表示	過電流によるバッテリーの放電	常にエラー90が表示される場合は、乗車を停止し、しばらくして再起動する
	エラーコード 91表示	バッテリーの過熱	充電や乗車を停止し、バッテリーの温度が下がってから乗車する
	エラーコード 94表示	バッテリーの通信エラー	バッテリーコネクタの状態を確認し、販売店またはカスタマーサービスに連絡する
	夜間または 1 日後にバッテリーの容量が低下している	CPU、コントローラー、セキュリティアラームがバッテリーを消費する	異常ではない
	公式発表と走行距離に差がある	公式発表の走行距離は、特定の状況でテストされています 道路状況、天候、気温、風、積載重量などの影響を受けます	ご不明な点は販売店かカスタマーサービスに連絡してください

FAQ & トラブルシューティング

バッテリーの状態		原因	対応
保管中	バイクが起動しない	バッテリーの保管時間が長すぎる、バッテリー残量が少ない、またはリモコンの電池が切れている	リモコンの電池を交換、またはバッテリーを充電する。充電できない場合は、販売店またはカスタマーサービスに連絡する
充電	エラーコード 89表示	低温充電	バッテリーを取り出し、暖かい室内で充電する
充電	エラーコード 92表示	過充電	充電を停止し、充電器を確認する
充電	充電中に充電器が過熱する	充電中は充電器内の電流が大きく、熱を放出するため、充電器の金属ケースが熱くなる	異常ではありません 通気の良い場所で充電器を使用してください
バッテリー浸水	バッテリーを正常に使用できない、電動バイクを始動できない	水しぶき、水没、走行時に深い水たまりに入ってしまいバッテリー内部へ浸水する	使用を直ちに停止し、販売店またはカスタマーサービスに連絡する
バッテリーケースの破損	バッテリーに衝撃を与えたり、落としたりすると、バッテリーケースに損傷や亀裂が発生する	使用するとバッテリーケースが損傷する	使用を直ちに停止し、販売店またはカスタマーサービスに連絡する

FAQ & トラブルシューティング

FAQ & トラブルシューティング

エラー事象	原因	対応
電源が入らない 起動しない	1. バッテリーの接続不良 2. ブレーカーがONになっていない	1. バッテリーの接続確認 2. ブレーカーをONにする
電源を入れ、スロットルを回しても モーターが作動しない	1. バッテリー残量の低下 2. サイドスタンドが収納されていない 3. パーキングモードがON状態 4. ブレーキレバーが正しい位置に戻っていない 5. スロットルエラー 6. コントローラ—プラグが緩んでいる 7. コントローラ—故障	1. バッテリーを充電する 2. サイドスタンドを収納する 3. パーキングモードを解除する 4. ブレーキレバーを正しい位置に戻す 5. スロットルを交換する 6. コントローラ—を再接続する 7. コントローラ—を交換する
速度が出ない または走行距離が短い	1. バッテリー残量の低下 2. タイヤが異常に潰れている 3. 過積載 4. ブレーキの作動に不具合がある 5. バッテリーの劣化または不良	1. バッテリーを充電する 2. 空気圧の調整 3. 適切な重量での運行 4. ブレーキパッドを交換し、乗る前にブレーキシステムを確認する 5. バッテリーを交換する
バッテリーが充電できない	1. 充電プラグの接触不良 2. 指定外の充電器を使用 3. バッテリーの劣化または不良	1. プラグが正しい位置にあるかを確認する 2. メーカー指定の充電器を使用する 3. バッテリーを交換する 4. 充電器の接続順を変更しプラグを挿す

FAQ & トラブルシューティング

エラー事象	原因	対応
エラーコード 99	FOC・ECUコントローラーの通信エラー	FOC・ECUカプラの接続部を確認する 販売店かカスタマーサービスに連絡する
エラーコード 98	FOCコントローラーが作動停止している。(過電流、モーター不良、電圧不足、過熱の可能性があります)	乗車を中止し、しばらく待ってから再起動する 販売店かカスタマーサービスに連絡する
エラーコード 97	FOC・ECUコントローラ内の電気的エラー	FOC・ECUカプラの接続部を確認する 販売店かカスタマーサービスに連絡する
エラーコード 96	FOCコントローラ内のホールセンサーエラー	
エラーコード 95	スロットルコントローラエラー	スロットル操作を行った状態で起動していないか確認 スロットルカプラの接続を確認する
エラーコード 94	バッテリーの通信エラー	バッテリーの接続部を確認する 販売店かカスタマーサービスに連絡する
エラーコード 93	充電中の過電流によるエラー	充電を中止し、充電器のインジケータを確認する
エラーコード 92	充電中の過電圧によるエラー	
エラーコード 91	バッテリーの過熱によるエラー	充電または乗車を停止して、バッテリーの温度が下がってから再開する

FAQ & トラブルシューティング

エラー事象	原因	対応
エラーコード 90	バッテリー放電時の過電流	常にエラー90が表示される場合は、乗車を中止し販売店かカスタマーサービスに連絡する
エラーコード 89	バッテリーが低温状態での放電	バッテリーを取り出して、暖かい室内に移動し、しばらくしてから充電する
エラーコード 88	車両が低温状態での放電	バッテリーと車輛を暖かい場所に保管し、しばらくしてから充電する

基本仕様

製 品 名 ：	F01（エフゼロワン）
ク ラ ス ：	原付二種
バッテリー ：	リチウムイオン
モ ー タ ー ：	VMOTO製
車 体 寸 法 ：	1940 x 730 x 1160(㎜)
車 体 重 量 ：	約110㎏ ＊1
バッテリー重量：	約20 ㎏

バッテリー定格容量：	2700Wh(60V45Ah)
定格出力/最大出力：	1.0kW / 4.7kW
航 続 距 離 ：	≧80㎞ ＊2
最 高 速 度 ：	≧77㎞/ｈ
乗 車 定 員 ：	2名
製 造 国 ：	中国
充 電 時 間 ：	10-11h

＊1：バッテリーを含む総重量となります。
＊2：航続距離は体重55kgのライダーが45km/h で定地走行した場合の数値となります。
＊3：各車両の航続距離は、お客様のご使用環境(気象条件・体重・勾配・運転方法・車両状態・装備など)によって、
大きく変化いたします。
航続距離のカタログ値は参考数値としてお考えください。

メンテナンス スケジュール

コンポーネント	作業内容	1,000km または 1ヶ月 (いずれか早い方)	3,000km または 6ヶ月 (いずれか早い方)	6,000km または 1年 (いずれか早い方)	9,000km または1年半 (いずれか早い方)	12,000km または2年 (いずれか早い方)
全般	I	✔	✔	✔	✔	✔
ステアリング、操作系	I / E	✔		✔		✔
ステアリングベアリング	I / C / L	✔		✔		✔
電気系統	I	✔	✔	✔	✔	✔
ライト、スイッチ	I / E	✔	✔	✔	✔	✔
サーキットブレーカー	I	✔	✔	✔	✔	✔
ホイールベアリング	I / E			✔		✔
ホイール、リム	I	✔	✔	✔	✔	✔
タイヤ	I*			✔		✔
ブレーキ全般	I / C / E	✔		✔		✔
ブレーキオイル	E					✔
フロントフォーク	I	✔		✔		✔
リヤショックアブソーバー	I	✔		✔		✔
スロットル	I / L			✔		✔
メイン/サイドスタンド	I / C / E	✔		✔		✔
ベルト/ベルトホイール	I / C / E			✔		✔

I … Control（点検）　E … 交換　C … 清掃　L … 給油　*Check：溝深さ / 空気圧

【 Controlについて 】

機能が正しいか確認してください。清掃や給油の指示があれば追加で行わなければなりません。エラーや欠陥が検出された場合は、修復する必要があります。

※運行前点検は上記の表に関わらず行う必要があります。

メンテナンス レコード

日付	年　　月　　日	走行距離	
ノート			
販売店			

1ヶ月点検整備記録簿（電動車）

二輪車	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 参照事項
※1 各変速モードで作動させ、うなり音等の異音の有無を確認お願いいたします。
※2 ステム緩み止めナットの状態確認要。
※3 タイヤ溝深さを確認。
※4 タイヤ規定空気圧→ 1 名乗車…(前)175kPa / (後)200kPa
2 名乗車…(前)175kPa / (後)225kPa

電動機点検

■ 本体

- [ ] 電動機の作動状態 •異音の有無※1
- [/] 低速 •加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル

- [ ] 操作具合

■ フロントフォーク

- [ ] 損傷
- [ ] ステアリングステムの取付状態※2
- [/] ステアリングステムの軸受け部のがた

電気•保安装置点検

■ 走行用バッテリー

- [ ] 本体の損傷 •ターミナル部の緩み損傷の有無

■ スイッチ類

- [ ] 灯火装置 •方向指示器
- [ ] ホーンの作用 •ハンドルロック装置の作用
- [ ] 計器の作用

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- [ ] 遊び
- [ ] ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

- [ ] 緩み •がた •損傷

■ ホース及びパイプ

- [ ] 漏れ •損傷 •取付状態

■ リザーバタンク（ディスクブレーキ）

- [ ] ブレーキ液の量

足回り点検

■ ホイール

- [ ] タイヤの空気圧※3
- [ ] タイヤの亀裂 •損傷の有無
- [ ] タイヤの溝の深さ •異常な磨耗※4
- [ ] ホイールのボルト •ナットの緩み

■ ショックアブソーバー

- [ ] 損傷 •オイル漏れの有無

その他

- [ ] 外観樹脂パーツの損傷の有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品／記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm / R mm
ブレーキパッド残量
F mm / R mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヶ月点検整備……
●12ヶ月点検整備……　＋
※納車時点検は6ヶ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体

- 電動機の作動状態 •異音の有無
- 低速 •加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル

- 操作具合

■ フロントフォーク

- 損傷
- ステアリングステムの取付状態
- ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール

- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂 •損傷の有無
- タイヤの溝の深さ •異常な磨耗
- ホイールのボルト •ナットの緩み
- フロントホイールベアリングのがた
- リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム

- 連結部のがた •アームの損傷

■ ショックアブソーバー

- 損傷 •オイル漏れの有無

その他

- フレームの緩み •損傷
- シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

- 遊び
- ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

- 緩み •がた •損傷

■ ホース及びパイプ

- 漏れ •損傷 •取付状態

■ リザーバタンク

- ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ •ホイールシリンダ及びディスクキャリパ

- 機能 •磨耗 •損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

- ドラムとライニングのすき間
- シューの摺動部分 •ライニングの磨耗

電気•保安装置点検

■ バッテリー

- 本体の損傷 •ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線

- 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類

- 灯火装置 •方向指示器の作用
- ホーン •ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm /　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm /　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヶ月点検整備……☐

●12ヶ月点検整備……☐ ＋ ☐

※納車時点検は6ヶ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体

☐ 電動機の作動状態 •異音の有無　☐ 低速 •加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル

☐ 操作具合

■ フロントフォーク

☐ 損傷　☐ ステアリングステムの取付状態

☐ ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール

☐ タイヤの空気圧　☐ タイヤの亀裂 •損傷の有無

☐ タイヤの溝の深さ •異常な磨耗

☐ ホイールのボルト •ナットの緩み

☐ フロントホイールベアリングのがた

☐ リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム

☐ 連結部のがた •アームの損傷

■ ショックアブソーバー

☐ 損傷 •オイル漏れの有無

その他

☐ フレームの緩み •損傷　☐ シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

☐ 遊び　☐ ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

☐ 緩み •がた •損傷

■ ホース及びパイプ

☐ 漏れ •損傷 •取付状態

■ リザーバタンク

☐ ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ •ホイールシリンダ及びディスクキャリパ

☐ 機能 •磨耗 •損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

☐ ドラムとライニングのすき間

☐ シューの摺動部分 •ライニングの磨耗

電気•保安装置点検

■ バッテリー

☐ 本体の損傷 •ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線

☐ 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類

☐ 灯火装置 •方向指示器の作用

☐ ホーン •ハンドルロック装置の作用　☐ 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm /　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm /　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿（電動車）

二輪車						
	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヶ月点検整備……☐

●12ヶ月点検整備……☐ ＋ ☐

※納車時点検は6ヶ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体

☐ 電動機の作動状態 •異音の有無　☐ 低速 •加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル

☐ 操作具合

■ フロントフォーク

☐ 損傷　☐ ステアリングステムの取付状態

☐ ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール

☐ タイヤの空気圧　☐ タイヤの亀裂 •損傷の有無

☐ タイヤの溝の深さ •異常な磨耗

☐ ホイールのボルト •ナットの緩み

☐ フロントホイールベアリングのがた

☐ リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム

☐ 連結部のがた •アームの損傷

■ ショックアブソーバー

☐ 損傷 •オイル漏れの有無

その他

☐ フレームの緩み •損傷　☐ シャシ各部の給油脂状態

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー

☐ 遊び　☐ ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類

☐ 緩み •がた •損傷

■ ホース及びパイプ

☐ 漏れ •損傷 •取付状態

■ リザーバタンク

☐ ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ •ホイールシリンダ及びディスクキャリパ

☐ 機能 •磨耗 •損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー

☐ ドラムとライニングのすき間

☐ シューの摺動部分 •ライニングの磨耗

電気•保安装置点検

■ バッテリー

☐ 本体の損傷 •ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線

☐ 接続部の緩み損傷

■ スイッチ類

☐ 灯火装置 •方向指示器の作用

☐ ホーン •ハンドルロック装置の作用　☐ 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年　月　日
整備完了日
年　月　日
タイヤの溝の深さ
F　mm /　R　mm
ブレーキパッド残量
F　mm /　R　mm

点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

お問い合せ

バイクについてのお問い合せ・ご相談は取扱店にお気軽にご連絡ください。

取扱店

TEL

製品についてお問い合せ

XEAM
カスタマーサービス

TEL 092-292-5374　**MAIL** info_xeam@mssjapan.jp

受付時間 9:00-12:00 / 13:00-18:00 (月～金)

〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲5丁目 6-24 第6ガーデンビル 6F
販売元 ： 株式会社 MSソリューションズ

XEAM 公式ホームページ：https://www.xeam.jp/ | **MS ソリューションズ公式ホームページ：https://www.mssjapan.jp/**

保　証　書

製品保証について

保証書に記載の対象車両の保証部位に、材料上もしくは製造上の不具合等による故障が発生した場合、無償で修復させていただきます。なお、弊社の指示、承諾を得ずに改造等を行った車両については全て保証対象外とさせていただきます。

※一般的な使用用途外(レース場での使用等) についても保証対象外とさせていただきます。

保証対象部品…フレーム・フロントフォーク・スイングアーム・ホイール・リヤサスペンション・ブレーキ・ステアリング・電動機・コントローラー・走行用バッテリー(過放電は保証適用外) ・その他メーカーが定めた主要部品

保証適用外の範囲 …外装部品・シート・消耗部品（ブレーキパッド・ブレーキシュー・タイヤ・ゴム類・油脂類等・ブレーキディスク・電球類・ヒューズ等） ・その他メーカーが定めた部品・主観的な音や振動に関する部品

車両の譲渡について、詳しくはWEBページをご覧ください。https://www.xeam.jp/

1ヶ月点検について

新車登録または届け出をされてから1ヶ月を目安に行う点検です。この時期の点検は車両寿命に影響を与えることが多いことから、新車登録または届け出をされてから約1ヶ月（または1000㎞時）の点検を弊社提携店舗にて実施いたします。直営店（WEB販売含む）にてご購入いただいた場合は無料にてお受けいたします。有効期間を過ぎますと、有料となります。（有効期間：新規登録もしくは届け出をしてから約1ヶ月もしくは有効期間内に走行距離が1000㎞を超える場合は、1000㎞走行時となります。）

- 1ヶ月の点検内容
- 電動機の低速及び加速の状態の点検
- リム及びホイールディスクの損傷の点検
- ブレーキの利き具合の点検
- ブレーキロッド及びケーブル類の緩み、がた、損傷等の点検
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ブレーキホース及びパイプの液漏れ、損傷、取り付け状況の点検

定期点検について

2007年 4月 1日より『道路運送車両法』の改正等により、2007年 4月 1日以降の新車登録車より、以下の内容での定期点検内容に変更となりました。

- 6ヶ月点検の廃止
- 走行距離加味点検とシビアコンディション点検の設定

点検の種類について

● 日常点検

法律に準じてユーザー様自身で日々の車両の状況、状態に応じてユーザー様自らが適宜行う点検です。走行前、充電前、洗車前等に行ってください。

- ブレーキレバー（前後）の遊び、きき具合
- ブレーキ液の量（前後）
- 灯火装置および方向指示器
- 低速•加速の状態
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- 運行において異状が認められた箇所

● シビアコンディション点検

通常使用より過酷な状況で車両を使用した場合、部品の劣化や破損等が通常より早く進行してしまうケースがございます。それを早期に発見するために整備士が6ヶ月ごとに行う点検のことをさします。シビアコンディションの目安、状況については以下の通りです。

- 坂道や山道の走行が全走行の30%以上を占めている。またそれに伴うブレーキの使用が多い
- 走行距離が半年で3000㎞以上である
- 未舗装路や凸凹道の走行が全走行の30%以上を占めている

※整備点検等でご不明な点は販売店、取次店にご相談ください。

保証有効期間について

☑ **店舗でご購入**　：登録日から 2年 or 10,000km 走行時

☑ **弊社HP でご購入**　：出荷日から 2年 or 10,000km 走行時

※年数、km は早く到達した方を適用

ご購入日　　年　　月　　日

氏名　　様　TEL　　-　　-

〒

住所

登録番号

車名　　車台番号

X E A M

ELECTRIC MOTORCYCLE